

まちひとしごと

Vol. 56

倶知安ソフトボール少年団
事務局長 竹内 好行 さん

努力する楽しさを 子どもたちに伝えたい



ソフトボール少年団『倶知安 Milky's』の創設者で、コーチとして子どもたちの指導を行う竹内好行さんは、30年以上前から選手や審判として、ソフトボールに携わってきた。

生まれも育ちも倶知安の竹内さんは、小中高と大好きな野球に打ち込み、社会人になっても朝野球を続けた。そんな竹内さんとソフトボールとの出会いは38歳の頃、職場の仲間を集め、ソフトボールのチームを立ち上げたことがきっかけだった。

『ソフトボールのまち』と言われてきた倶知安には、かつて4つ

の小学校にチームがあったが、少子化や指導者不足の影響から、各校で存続が難しくなった。

「このままでは町内の小学校からチームが無くなってしまいうという危機感があり、長くソフトボールに関わってきた者として、何とかしなくてはと思いました」

その後、各小学校や町ソフトボール協会などの協力を受けながら、平成25年に『倶知安ソフトボール少年団』を発足させた。選手4名でのスタートだった。

創設から10年目となる今年、ミルキーズは全道規模の大会で初優勝。ついに頂点を味わった。

「初めて大会に出場した時は全く歯が立たず、何もできないうちに終わってしまったのを覚えています。しかし、子どもたちは試合の度に大きく成長し、自信をつけていきました。実践を通じて、努力が結果に結びつくということを感じてもらいたいです」

試合を重ねながら、どうすれば勝てるのかを常に考えていたという竹内さん。学生時代に野球で培った経験を生かしながら、チームの強みであるバッティングの練習にも力を入れた。

「コーチとしては、基礎を粘り

強く教えることを心がけています。習得の早い子やすぐに忘れてしまう子、いろいろな子どもがいるからこそ面白く、やりがいも大きいのです。全員に同じ教え方をするのではなく、それぞれの特性や強みを伸ばしてあげられるような指導がしたいと思っています」

来年1月の全道大会が、6年生にとって最後の大会となる。前々回は3位、前回は準優勝だったこの大会で、今回こそは優勝したいと話す。

「1年生から見てきた子どもたちが6年生になり、チームを引っ張っている姿を見ると感慨深いです。ミルキーズは、学年を越えて一つになり、高め合い、励まし合えるチームに成長しました。あの子たちなら優勝できると信じています」

今シーズン最後の大会、金メダルを手にする子どもたちと、その横でうれしそうに目を細める竹内さんの姿がきつと見られるに違いない。

※まちひとしごとは不定期連載です